

581 胸むねに刻きざむ

大切なことを、しっかりと心こころにとどめて、忘わすれないようにする。

582 胸むねを打うつ

深く感動かんとくする。深く感動かんとくさせる。

583 胸むねを貸かす

実力じつりょくのある人ひとが、自分じぶんよりも実力じつりょくが下したの人ひとの相手あいてをしてあげること。

584 胸むねを借かりる

実力じつりょくのない人ひとが、自分じぶんよりも実力じつりょくのある人ひとに相手あいてをしてもらう。

585 胸むねをなで下おろす

心配事しんぱいごとがなくなったり、物事ものごとがうまくいき、安心あんしんする。

586 胸むねを張はる

堂々どうどうとした、自信じしんに満みちた態度たいどをとる。

587 無用むようの長物ちやうぶつ

役やくに立たないだけでなく、むしろ邪魔じゃまになるもの。

588 明暗めいあんを分わける

勝ち負まけ、幸不こうふ不幸こふなど、二つふたの反対はんたいのものが、はっきりと分けられる。

589 目めが利きく

物ものの本当ほんとうの価値かちや真贋しんかん(本物ほんものか偽物にせものかどうか)を見分みわけける力ちからを持つもっている。

590 目めが眩くらむ

①強い光ひかりなどで、目めが見えなくなる。②何なにかに心こころを奪うばわれ、判断はんだんができなくなる。

591 目めが肥こえる

優れたものを何度なんども見て、価値かちを見分みわけける力ちからをつける。

592 目めが覚さめる

迷まよいがなくなり、本来ほんらいの進すすむべき道みちに戻るもどく。

593 目頭めがしらが熱あつくなる

深く感動かんとくして、涙なみだが浮うかんでくる。

594 目めが高たかい

物ものの価値かちを見極みきわめる力ちからを持つもっている。

595 目めが出でる

物事ものごとがうまく具合ぐあいに進すすむ。幸運こううんが巡めぐってくる。

596 芽めが出でる

報むくわれない状態じょうたいから抜ぬけ出し、成功せいこうの糸口いとぐちが見えってくる。幸運こううんが巡めぐってくる。

597 目めが届とどく

注意ちゅういや監督かんとくが行いき渡るわたる。

598 目めがない

①思おもわず夢中むちゆうになつてしまふほどに好きすきである。②物事ものごとの価値かちなどを正ただしく判断はんだんする力ちからがない。

599 眼鏡めがねにかなう

目上めうえの人ひとに気きに入いられる。認めみとめられる。

600 目めが回まわる

①めまいがする②非常ひじょうに速はやいことや忙いそがしいことのととえ。